

米国の電子書籍産業動向

瀧口 範子 在米ジャーナリスト

デバイス、コンテンツ、配信網の多様化で急伸する米国電子書籍市場 大手出版社とアマゾン、アップル、グーグルとの駆け引きが注目を集める

米国の電子書籍市場規模

米国における電子書籍の市場規模は、2008年から急上昇している(資料1-1-3)。2009年末現在で、アメリカの出版売上総額に占める電子書籍の比率は3.31%とまだ少ない(AAP=アメリカ出版協会調べ)が、年々の伸びには目を見張るものがある。2007年から2008年までの伸び率は90%、さらに2008年から2009年は170%となっており、ここ数年、伸びが減速あるいはマイナスとなっているプリント書籍売り上げと比べると、顕著な違いだ。

この背景には、2007年秋に登場したアマゾン Kindle をはじめとする電子書籍リーダーが注目を集めたことと、読書デバイスとしてのスマートフォンの台頭がある^(※1)。

また、2010年4月に発売され、発売後1か月足らずで100万台を売り上げたアップルの「iPad」は、発売初日に25万冊の電子書籍がダウンロードされるなど、電子書籍への追い風になっていることは間違いない。

後述するグーグルのブック検索による無料コンテンツも合わせ、安く、あるいは無料で大量の電子書籍を読む方法が増えている。

デバイス、コンテンツ、配信網など、電子書籍に関連した環境が一気に多様化しているのが、現在のアメリカの電子書籍市場だと言える。

アマゾン、アップル、グーグルと米国出版社

このように、アマゾン、アップル、グーグルがこれまで牽引してきた米国の電子書籍だが、既存の出版社は、2009年末ごろから電子書籍市場での立ち位置を表明

せざるを得ない状況に追い込まれている。3社の動きと、大手出版社の動きを概観したい。

・アマゾン

アマゾン Kindle の発売は、オンライン書店として登場した1995年以来、獲得したユーザーをそのまま電子書籍へと移行させることを狙ったものだ。Kindle 発売と同時に開始したKindle 版電子書籍は、新刊のベストセラー本が9.99ドルという、これまで以上の値引きが注目された。アメリカでのハードカバーの価格は、たいてい25～26ドルなので、これは約60%もの値引きとなる。格安価格でユーザーの注目を集め、Kindle との抱き合わせで電子書籍を広めるというアマゾンの戦略は功を奏し、電子書籍市場の90%を押さえるまでになっていた。

ところが、この超安価な価格設定が、出版社との間に軋轢を起こしていた。プリント書籍売り上げがまだ97%近くを占める現在では、出版社は、プリント書籍の販売網を保持しながら電子書籍を育てていくことを目論んでいたのである。しかし、アマゾンの電子書籍の破格な価格設定によって、消費者がプリント書籍を割高と見るようになり、書店で書籍が売れなくなるということを出版社は危惧するようになったのだ。

・アップル

そこに現れたのが、iPad 発売を控えたアップルだった。アップルは、アマゾンとは異なる「エージェンシー・モデル」を掲げ、出版社自身が電子書籍の小売価格を設定

できることを売りにして出版社へアピールした。アップルは12.99ドル、14.99ドルの2通りの価格設定を提示したとされている。アマゾンの独壇場だった電子書籍市場に競合プレーヤーが登場したことで力学が変化し、出版社はアマゾンに対して交渉力を行使することが可能になった。そして、2009年12月から2010年4月までの間にさまざまな駆け引きが行われ、その結果、「ビッグ6」と呼ばれる大手出版社6社のうち5社までがアップル、アマゾン双方とエージェンシー・モデルで契約したものと見られている。

ただし、iPad 発売後、ベストセラーリストの約半数のデジタル書籍は、アマゾンもアップルも9.99ドルで販売するなど、事態は流動的となっている。

・グーグル

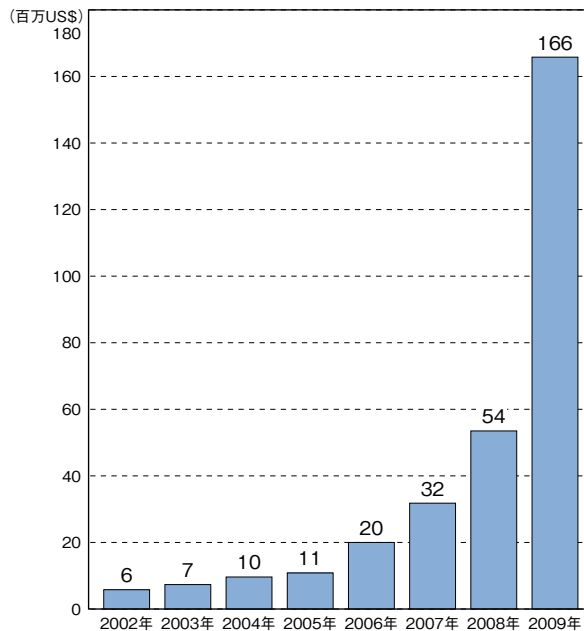
他方、グーグルは書籍やデバイスではなく、データ面からデジタル書籍界に参入してきた。2004年に開始した「グーグルブック」プロジェクトは、世界中の図書館の蔵書をスキャンして、検索機能つきで公開しようというものだ。だが、スキャンした書籍の中には、著作権保護期限内のものも多数含まれていたため、当初から出版社や著者らの異議が唱えられ、これが訴訟に発展した。

訴訟は2008年5月に、グーグルと米国出版社協会および米国作家協会との和解に達し、合計1億2500万ドルの和解金が支払われた。しかし、その後著作権所有者が特定できない孤児作品についてグーグルが独占的権利を有するのではないかという危惧から、和解案にも異議が持ち上がった。その後、和解修正案が出されたものの、それに対して米国司法省が2010年2月に独占禁止法上の懸念を表明し、2010年5月現在、最終審理が棚上げになったままとなっている。

これとは別に、グーグルは独自の電子書籍書店「グーグル・エディションズ」を夏にも開設する予定だ。グーグル・エディションズの詳細は不明だが、基本的にはクラウド上の書籍データをさまざまなデバイスで読めるしくみとなる。

Kindle も iPad も独自のフォーマットで閉じられ、DRM (デジタル権利管理) によって利用できるデバイスに制限がかかっているが、グーグル・エディションズで

資料 1-1-3 米国における電子書籍の市場規模の推移 [2002年-2009年]



出所：International Digital Publishing Forum
※数値は卸売価格による算出。小売価格では約2倍になる。

購入するデジタル書籍はもっとオープンな環境を提供するものと思われる。

今後の展望

デジタル書籍がこうした多様な方法で一般消費者に配信されることを、出版社はおおむね歓迎している。だが、出版業界にとってのチャレンジは大きい。1つは、デジタル化による新しい書籍のあり方を模索する必要性だ。出版社によっては、著者のビデオインタビューや創作背景などのコンテンツを付録としてつけた特別版の制作にかかっているところもある。

また、デジタル専門の出版社との競合もこれまでにない問題だ。デジタル出版社や配信会社と直接契約する著者もあり、これまで出版社が提供してきたサービスを再定義することが求められている。さらにソーシャルネットワークと連動したマーケティングなど、出版界にとって、新たな方法を模索する必要にも迫られている。

アメリカの電子書籍界は今、既存出版社も巻き込んだ本格的な隆盛期に入ろうとしている。

(※1) スマートフォンのユーザー調査会社フラリーによると、2009年はスマートフォンで電子書籍を読むユーザーが3倍に増えたという。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp